

The Emerging Market Weekly

国際為替部

マーケット・エコノミスト

佐々木 貴彦

03-3242-7065

takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周

03-3242-7065

amane.saito@mizuho-bk.co.jp

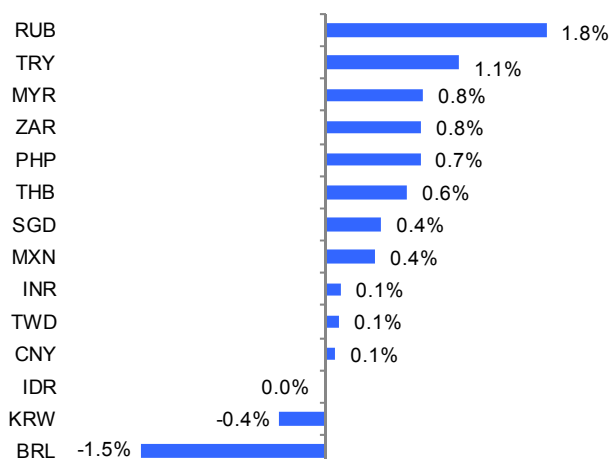
今週のエマージングマーケット

ドル安・原油高を背景に新興国通貨は上昇

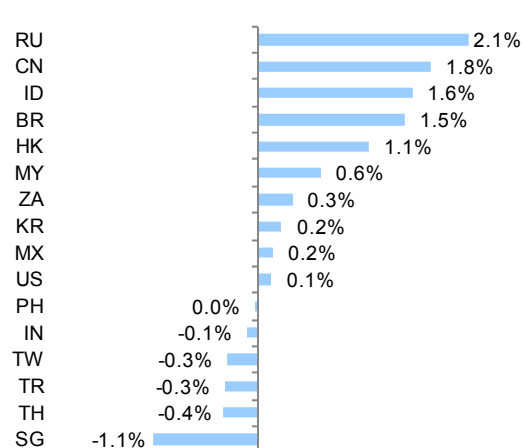
今週の新興国通貨は大半が上昇した。先週末に発表された米7月小売売上高が市場予想を下回り一時ドルは下落するも、米株の反発を背景に値を戻した。週初もドルは高止まりし、新興国通貨は軟調な値動きとなった。しかし、欧米時間に入ると、原油価格の上昇に連れて資源国通貨は反発した。16日、ドル/円が100円を割り込むなど、主要通貨においてドル安の動きが進む展開に、大半の新興国通貨が続伸した。その後、ダドリー・NY連銀総裁の「9月の利上げは有り得る」との発言を受け、やや売り戻された。17日に発表されたFOMC議事要旨では、一部メンバーが早期の利上げを支持するも、大半のメンバーが様子見姿勢を維持したことから、米利上げ期待は高まらず、新興国通貨は安定推移を続けた。

個別通貨で見ると、原油価格の上昇を背景に資源国通貨であるRUB(+1.8%)、MYR(+0.8%)、ZAR(+0.8%)が連れ高となった。また、TRY(+1.1%)は大手格付け会社が格付けを据え置くとの期待が高まり、上昇した。4~6月期GDPが市場予想を上回る結果となったPHP(+0.7%)とTHB(+0.6%)も値を伸ばした。BRL(▲1.5%)は、上院において政府歳出の柔軟性を高める法案の採決が見送られたことで下落した。

エマージング通貨騰落率(対ドル)



エマージング株式騰落率



(注) US: 米国 S&P500 種指数、CN: 中国上海総合指数、HK: 香港ハンセン指数、IN: インド SENSEX30 種指数、ID: インドネシアジャカルタ総合指数、KR: 韓国総合株価指数、MY: マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス、PH: フィリピン総合指数、SG: シンガポール ST 指数、TW: 台湾加権指数、TH: タイ SET 指数、RU: ロシア RTS 指数、ZA: 南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数、TR: トルコイスタンブールナショナル 100 種指数、BR: ブラジルボベスバ指数、MX: メキシコボルサ指数

(資料) ブルームバーグ

エマージングマーケット短期見通し

米利上げ期待の後退に伴い新興国通貨は上昇

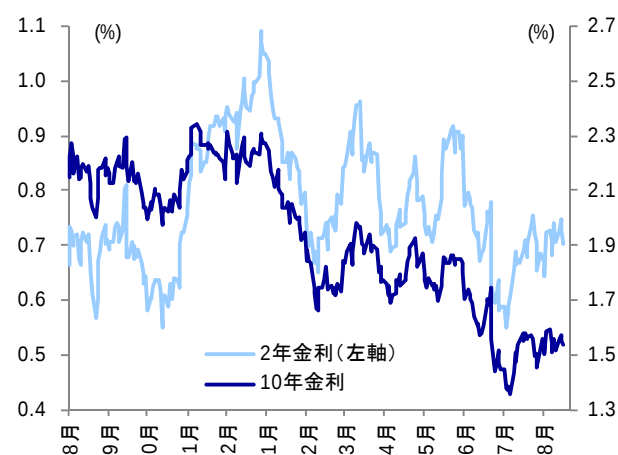
材料も少なく、レンジ内推移を予想

今週の新興国通貨は、堅調な値動きとなった。冴えない米経済指標を背景に年内の米利上げに対する期待が後退し、ドル安の流れとなったことが影響した。また、米原油在庫の減少などを背景に原油価格が急伸したことで、資源国通貨が大きく買われる展開となった。

来週の新興国通貨は、レンジ内推移が続くと予想する。ジャクソンホールにて開催される年次経済シンポジウムにおいて、26日（金）にイエレンFRB議長の講演が予定されている。それまで市場を動かす材料は乏しく、新興国通貨は方向感なく推移すると考える。その議長講演も、17日に発表されたFOMC議事要旨（7月26日～27日開催分）に鑑みれば、利上げ時期が示唆される可能性は低く、引き続き利上げは米経済指標次第という様子見姿勢が維持される公算が大きい。また、夏季休暇に入っている参加者も多いと考えられることから、議長講演後も各通貨の動意は乏しい状態が続くと見る。

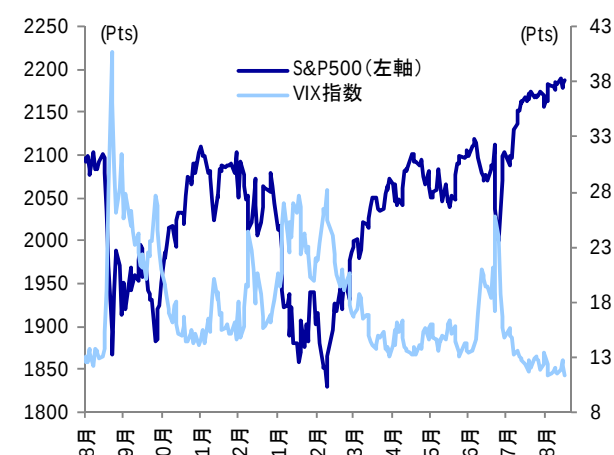
通貨の値幅が限定的になればなるほど、高金利通貨を買い、低金利通貨を売ること金利差を得るキャリートレードにとって有利な状況になる。実際、8月に入り、市場の値動きが落ち着くに連れて、RUB、ZAR、MXN、TRYなど高金利通貨が、他の新興国通貨対比でアウトパフォームしている。月内については、新興国通貨を大きく動かす要因は少なく、高金利通貨の上昇は続くと考ええる。しかしながら、9月2日（金）に米8月雇用統計を控えており、予想を上回る結果となればドル高が進むだろう。そうなれば、今まで買い進まれた分、高金利通貨は急落する可能性が高い。高金利通貨以外の新興国通貨についても当面は落ち着いた推移が続くと見込まれるが、9月には日米欧の金融政策決定会合が控えており、値動きは徐々に大きくなっていくと想定している。

図表 1: 米国債利回りの推移(過去1年間)



(資料)ブルームバーグ

図表 2: 米株とVIX指数の推移(過去1年間)



(資料)ブルームバーグ

インドネシア：2017 年度予算案を発表

政府は財政健全化を重視する姿勢を強める

16 日に発表されたインドネシア 2017 年度予算案では、歳出が 2070.5 兆ルピアと 2016 年度（1 次補正予算、以下同）の歳出（2082.9 兆ルピア）比▲0.6%縮小し、歳入も 1736.7 兆ルピアと 2016 年度（1786.2 兆ルピア）から▲2.7%減少している。2016 年度の当初予算が 2015 年度補正予算から増額していたこととは対照的に保守的な予算編成が行われた。背景には 2016 年度の歳入が予想以上に伸び悩んだことで 2 次補正にて歳出削減に追いやられたことがある模様だ。また、財政赤字の法定上限が対 GDP 比▲3.0%であることから、歳入下振れリスクに備えて、財政赤字幅は今年度（見込み）の同約▲2.5%から同▲2.41%に抑えられた。もっとも、公共事業・国民住宅省の予算は 2016 年度比+8.8%と、政府が重視しているインフラ投資への重点配分は維持されている。そのため、今回の予算案は財政健全化が行われつつ、重要な支出を維持するなど、バランスのとれた予算内容になったと言える。

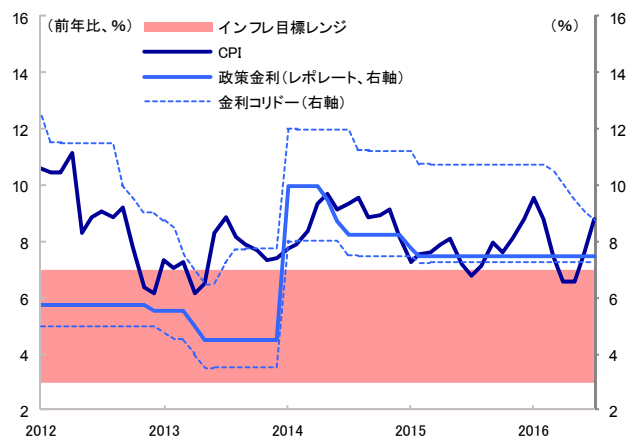
同時に発表された予算案の前提となる 2017 年の経済指標の想定では、経済成長率が+5.3%（2016 年度：+5.2%）と加速し、2017 年末のインフレ率は+4.0%と据え置かれた。このほか、想定為替レートは 13300（2016 年度：13500）に設定されている。こうした計数はあくまで予算案を作成する上での政府想定であるが、想定為替レートに関してマルチワルドヨ・インドネシア中銀（BI）総裁は「政府の為替レート“目標”は受け入れられる」との発言を行っており、BI が金融政策運営に際して同水準を参照する可能性も考えられ、その動向には注意が必要となるだろう。

図表 3：インドネシア 2017 年度予算案

		2017年度 予算案	2016年度 1次補正予算	変化率
成長率	%	5.3	5.2	—
インフレ率	%	4.0	4.0	—
為替レート	USD/IDR	13,300	13,500	—
原油価格	ドル/バレル	45	40	—
歳出	兆ルピア	2,070.5	2,082.9	▲0.6%
中央歳出		1,310.4	1,306.7	+0.3%
地方歳出		760.0	776.3	▲2.1%
歳入	兆ルピア	1,737.6	1,786.2	▲2.7%
税収		1,495.9	1,539.2	▲2.8%
税外収入		240.4	245.1	▲1.9%
贈与		1.3	2.0	▲35.0%

（資料）NNA、CEIC、みずほ銀行

図表 4：トルコ 政策金利と消費者物価指数(CPI)



（資料）CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

トルコ：金融政策決定会合プレビュー

インフレ加速も金利コリドー上限を引き下げると予想

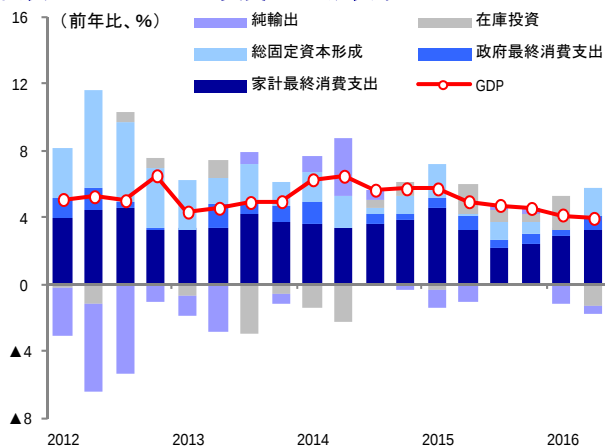
23日（火）に開催されるトルコ中銀（CBRT）金融政策決定会合では、政策金利であるレポレートは7.50%で据え置かれるも、金利コリドーの上限であり、市場金利が連動する翌日物貸出金利が25bp引き下げられ、8.50%になると予想する。前回会合（7月19日）では、レポレートとコリドー下限である翌日物借入金利は据え置かれる一方、翌日物貸出金利が25bp引き下げられ8.75%となった。そのため、コリドーは1.75%ポイントから1.50%ポイントに縮小した。声明文では金融機関に対する無制限の流動性供給策が、先月に発生したクーデター未遂に伴う金融市場の不安を和らげていることを理由に翌日物貸出金利を引き下げたとした。会合後に発表されたトルコ7月消費者物価指数（CPI）は前年比+8.8%と前月（同+7.6%）から加速し、2015年12月以降の高水準となっている。これはCBRTのインフレ目標（+3～7%）を大きく上回っており、物価動向を踏まえると金利コリドー上限を引き下げる余地は小さい。しかし、政府からの利下げ圧力が根強く、また先月に発表されたインフレ・レポートでは2018年にかけてインフレ率は低下するとの見通しをCBRTが示していることから、今回の会合でも金利コリドー上限を引き下げると予想する。

マレーシア：4～6月期 GDP は約7年ぶりの低成長

投資と輸出に弱い動き

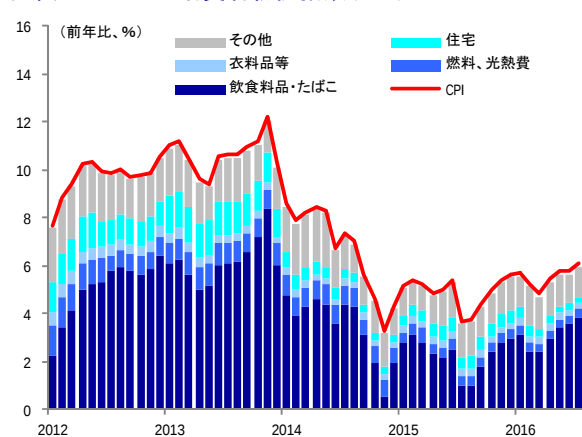
12日に発表されたマレーシア4～6月期GDPは前年比+4.0%と1～3月期（同+4.2%）から減速し、2009年7～9月期以来の低い成長率となった。内需が堅調に推移したが、投資や輸出の低迷が景気を下押しした。需要項目別では、雇用拡大を背景に家計最終消費支出（同+6.3%）が前期から加速し、政府最終消費支出（同+6.5%）も伸び率が拡大した。一方、総固定資本形成（同+1.5%）が弱い結果となったほか、純輸出（前年比寄与度：▲7.0ポイント）が2四半期連続でマイナス寄与となった

図表5：マレーシア 実質 GDP 成長率



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表6：インド 消費者物価指数(CPI)



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

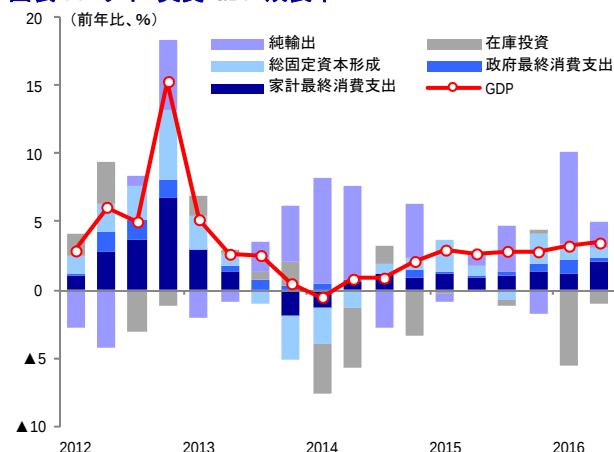
ことが低成長に繋がった。産業別に見ると、サービス業（前年比+8.8%）の加速が目立った一方で、農林水産業（同▲7.9%）が2か月連続のマイナスとなっている。ムハマド・マレーシア中銀（BNM）総裁は「経済は内需に支えられ依然底堅い」と発言し、2016年の成長率目標（+4.0～4.5%）は据え置かれた。もっとも、BNMは世界的な不透明感が景気の下振れリスクになるとの見方も示しており、先行きのマレーシア経済は内需に支えられるも、外需を中心に力強さに欠ける推移となる見通しである。

インド：7月CPIは引き続き高水準

食品を中心にインフレ圧力の高まりが続く

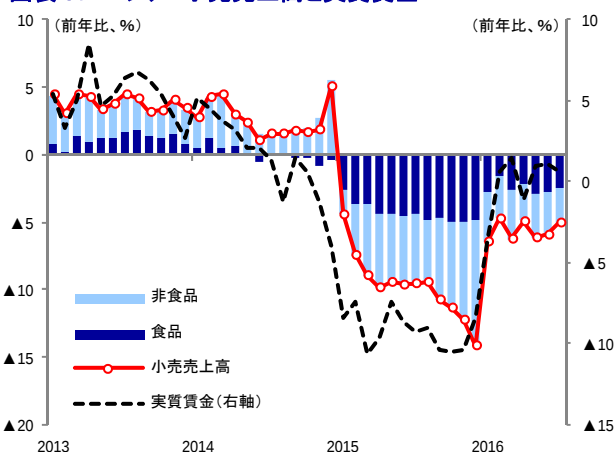
12日に発表されたインド7月CPIは前年比+6.04%と6月（同+5.77%）から4か月連続で加速し、引き続き2014年8月以来の高い上昇率となった。内訳を見ると、穀類を始めとして飲食料品・タバコが同+8.35%と6月（同+7.79%）から加速したほか、衣料品などや燃料・光熱費などでも伸び率の拡大が見られた。インド準備銀行（RBI）は9日に開催された金融政策決定会合にて政策金利の据え置きを決定しており、その背景には生鮮食品などにおける物価上昇への懸念があった模様だ。今後も公務員給与の引き上げや国内需要拡大によるインフレ圧力の拡大が予想されており、政府の2017年3月時点のインフレ目標（+4～6%）が達成されるかについては不透明感が大きい。もっとも、秋頃にかけては平年を上回るモンスーン期（雨期）の降雨量を受けて、農業生産の拡大とともにCPI加速の主因となっていた食品価格が抑えられる見込みだ。そのタイミングではRBIが景気下支えを目的に利下げに踏み切る可能性が高まるだろう。

図表7：タイ 実質GDP成長率



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表8：ロシア 小売売上高と実質賃金



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

タイ:4～6 月期 GDP は加速

農家の所得回復を背景に家計最終消費支出が加速

15日に発表されたタイ4～6月期GDPは前年比+3.5%と1～3月期（同+3.2%）から加速し、市場予想（同+3.3%）を上回る結果となった。内訳を見ると、長引いていた干ばつの収束に伴う農家の所得回復が家計最終消費支出（1～3月期：同+2.3%→4～6月：同+3.8%）を押し上げ、経済全体をけん引した。一方、政府最終消費支出（1～3月期：同+8.0%→4～6月期：同+2.2%）が減速し、輸出の低迷を背景に純輸出が前年比寄与度で+6.7ポイントから+2.0ポイントに縮小した。特に1～3月期に大幅な伸びを記録したサービス輸出（1～3月期：前年比+18.2%→4～6月期：同+12.1%）の低迷は気付きである。タイ政府観光庁のユタサック総裁は、11～12日にかけて発生した一連の爆破事件を背景に観光収入が1億4600万～2億9300万ドル減少する可能性を示唆した。対GDP比で見れば▲0.04～0.08%程度であるものの、英国のEU離脱（Brexit）問題を背景に欧州からの来訪者数の減少も懸念されており、タイ観光業が低迷する可能性が高まっている。また依然として財輸出の伸びも弱いことから、タイ経済の加速が年内続く可能性は低いと言えよう。

ロシア：原油急落を受けて雇用と賃金の伸び率が縮小

原油価格が上昇基調に戻ることで、生産や雇用も回復する見込み

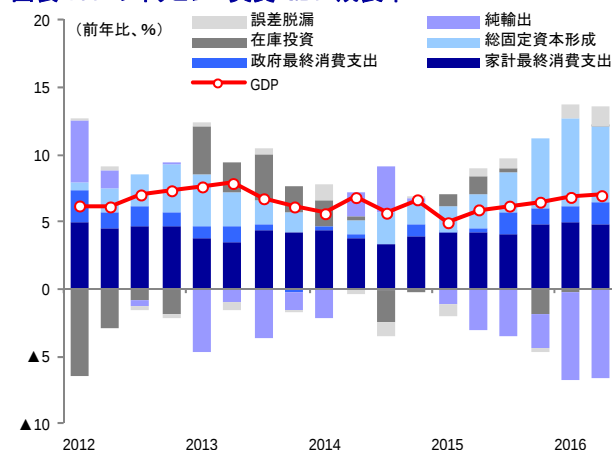
18日に発表されたロシア7月雇用関連統計では、失業率が5.3%（6月：5.4%、市場予想：5.4%）と4か月連続で低下するも、実質賃金は前年比+0.6%となり6月（同+1.1%）から伸び率が縮小した。7月に入り原油価格が急落し、鉱工業生産指数が4か月振りに前年比マイナスになるなど、生産活動の停滞が雇用と賃金の改善を抑制した模様だ。一方、7月小売売上高は前年比▲5.0%と6月（同▲5.9%）からマイナス幅が縮小した。内訳を見ると、食品（6月：同▲2.8%→7月：同▲2.5%）、非食品（6月：同▲3.1%→7月：同▲2.6%）ともに改善している。原

図表9：ロシア 鉱工業生産と原油価格



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表10：フィリピン 実質 GDP 成長率



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

油価格は8月に入り急反発しており、今後も底堅い推移が見込まれる。そのため、生産活動は回復し、雇用・賃金の改善が続くことで消費も押し上げられていくと考える。

フィリピン：4～6月期 GDP は約3年振りの高い成長率に

大統領選挙関連の支出により家計
最終消費支出は加速

18日に発表されたフィリピン4～6月期GDPは前年比+7.0%と1～3月期（同+6.8%）から加速し、2013年4～6月期以来の高い成長率となった。内訳を見ると、世界経済の低迷を背景に純輸出が前年比寄与度▲6.6ポイントと6四半期連続のマイナス寄与となる一方で、家計最終消費支出が前年比+7.3%と1～3月期（同+7.0%）から加速し、1988年7～9月期以来の高い伸び率となった。また、政府最終消費支出（1～3月期：同+11.8%→4～6月期：同+13.5%）も経済を下支えした。業種別では、鉱工業（1～3月期：同+9.0%→4～6月期：同+6.9%）、製造業（1～3月期：同+8.0%→4～6月期：同+6.3%）が減速したが、農林水産業（1～3月期：同▲4.4%→4～6月期：同▲2.1%）はマイナス幅が縮小した。また、サービス業（1～3月期：同+7.6%→4～6月期：同+8.4%）が加速し、高水準の伸び率を維持している。4～6月期における個人消費の力強い伸びは、5月に実施された大統領選挙に伴う一時的な支出拡大が影響した模様だ。そのため、年内は反動から家計最終消費支出の減速が見られるだろう。もっとも、ドゥテルテ政権は経済のボトルネックとなっているインフラ整備を積極的に進めることを示唆しており、積極的な政府支出などを背景にフィリピン経済は今後も高い成長率が続く予想する。

エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
8月12日 (金)	中国	7月 小売売上高(前年比)	10.5%	10.2%	10.6%	--
12日 (金)	中国	7月 固定資産投資	8.9%	8.1%	9.0%	--
12日 (金)	マレーシア	2Q GDP(前年比)	4.0%	4.0%	4.2%	--
12日 (金)	マレーシア	2Q 国際収支:経常収支MYR	3.4b	1.9b	5.0b	--
12日 (金)	インド	7月 消費者物価指数(前年比)	5.9%	6.1%	5.8%	--
12日 (金)	インドネシア	2Q 国際収支:経常収支	--	-\$4700m	-\$4688m	-\$4760m
12日 (金)	中国	7月 マネーサプライM2(前年比)	11.0%	10.2%	11.8%	--
12日 (金)	インド	7月 貿易収支	-\$8500.0	-\$7760.0	-\$8116.2	--
15日 (月)	タイ	2Q GDP(前年比)	3.3%	3.5%	3.2%	--
15日 (月)	シンガポール	6月 小売売上高(除自動車/前年比)	-1.3%	-3.0%	-3.3%	--
15日 (月)	インドネシア	7月 貿易収支	\$654m	\$598m	\$900m	\$879m
15日 (月)	フィリピン	6月 海外送金(前年比)	1.8%	4.8%	1.9%	--
16日 (火)	インド	7月 卸売物価(前年比)	2.8%	3.6%	1.6%	--
17日 (水)	シンガポール	6月 非石油地場輸出(前年比)	-2.5%	-10.6%	-2.3%	-2.4%
18日 (木)	フィリピン	2Q GDP(前年比)	6.6%	7.0%	6.9%	6.8%
19日 (金)	台湾	2Q 国際収支:経常収支	--	--	\$20716m	--
19日 (金)	台湾	2Q GDP(前年比)	0.7%	--	0.7%	--
19日 (金)	インドネシア	インドネシア銀行レファレンス・レート	6.25%	--	6.50%	--
19日 (金)	インドネシア	インドネシア銀行 預金ファシリティ・レート	5.13%	--	5.25%	--
19日 (金)	フィリピン	7月 総合国際収支	--	--	\$418m	--
23日 (火)	シンガポール	7月 消費者物価指数(前年比)	--	--	-0.7%	--
23日 (火)	台湾	7月 鉱工業生産(前年比)	2.1%	--	0.9%	--
24日 (水)	マレーシア	7月 消費者物価指数(前年比)	--	--	1.6%	--
24日 (水)	タイ	7月 貿易収支(通関ベース)	--	--	\$1970m	--
25日 (木)	フィリピン	6月 貿易収支	--	--	-\$2021m	--
26日 (金)	韓国	8月 消費者信頼感	--	--	101	--
26日 (金)	シンガポール	7月 鉱工業生産(前年比)	--	--	-0.3%	--
26日 (金)	インドネシア	7月 マネーサプライM2(前年比)	--	--	8.7%	--
中東欧・アフリカ						
8月15日 (月)	ロシア	7月 鉱工業生産(前年比)	0.8%	-0.3%	1.7%	--
17日 (水)	南アフリカ	6月 小売売上高(実質値、前年比)	3.6%	1.7%	4.5%	--
17日 (水)	ロシア	6月 実質小売売上高(前年比)	-5.7%	-5.0%	-5.9%	--
23日 (火)	トルコ	8月 消費者信頼感指数	--	--	67.0	--
23日 (火)	トルコ	指標レート	--	--	7.50%	--
23日 (火)	トルコ	翌日物貸出金利	--	--	8.75%	--
23日 (火)	トルコ	翌日物借入金利	--	--	7.25%	--
24日 (水)	南アフリカ	7月 消費者物価指数(前年比)	--	--	6.3%	--
ラテンアメリカ						
8月12日 (金)	ブラジル	5月 経済活動(前年比)	-3.7%	-3.1%	-4.9%	--
22日 (月)	メキシコ	2Q F GDP(前年比)	--	--	2.4%	--
22日 (月)	メキシコ	6月 経済活動IGAE(前年比)	--	--	2.2%	--
23日 (火)	メキシコ	6月 小売売上高(前月比)	--	--	1.2%	--
23日 (火)	ブラジル	7月 経常収支	--	--	-\$2479m	--
24日 (水)	ブラジル	8月 FGV消費者信頼感	--	--	76.7	--
24日 (水)	ブラジル	8月 IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	--	--	8.9%	--
25日 (木)	メキシコ	2Q 経常収支	--	--	-\$6991m	--

(注)2016年8月19日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
(資料)ブルームバーグ

エマージング通貨相場見通し

		2016年 1～7月(実績)	SPOT	2016年 9月	12月	2017年 3月	6月	9月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.4528 ~ 6.7047	6.6312	6.68	6.68	6.66	6.64	6.62
香港ドル	(HKD)	7.7488 ~ 7.8295	7.7535	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	66.071 ~ 68.789	66.810	68.0	67.5	65.8	64.5	64.0
インドネシアルピア	(IDR)	12984 ~ 14002	13120	13000	12800	12700	12500	12650
韓国ウォン	(KRW)	1120.15 ~ 1245.13	1107.23	1130	1120	1110	1100	1090
マレーシアリンギ	(MYR)	3.8442 ~ 4.4415	3.9965	4.10	3.90	3.87	3.85	3.88
フィリピンペソ	(PHP)	45.860 ~ 48.069	46.282	46.9	46.4	46.2	45.3	44.9
シンガポールドル	(SGD)	1.3313 ~ 1.4444	1.3399	1.36	1.36	1.33	1.32	1.33
台湾ドル	(TWD)	31.845 ~ 33.791	31.400	32.20	31.90	31.60	31.30	31.00
タイバーツ	(THB)	35.65 ~ 36.42	34.55	35.1	34.5	34.4	34.0	33.7
ベトナムドン	(VND)	22059 ~ 22535	22295	22350	22380	22200	22150	22250
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	62.6107 ~ 85.9573	63.7280	63.00	60.00	63.00	63.00	60.00
南アフリカランド	(ZAR)	13.8303 ~ 17.9169	13.3675	15.50	16.50	17.00	17.00	16.50
トルコリラ	(TRY)	2.7901 ~ 3.0973	2.9283	3.10	3.30	3.40	3.50	3.50
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	3.1832 ~ 4.1720	3.2392	3.30	3.40	3.46	3.52	3.56
メキシコペソ	(MXN)	17.0507 ~ 19.5187	18.1821	19.00	18.70	18.30	17.70	17.30
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	14.964 ~ 18.563	15.098	15.12	14.67	14.56	14.46	14.35
香港ドル	(HKD)	12.880 ~ 15.615	12.905	13.02	12.63	12.50	12.37	12.24
インドルピー	(INR)	1.468 ~ 1.823	1.497	1.49	1.45	1.47	1.49	1.48
インドネシアルピア	(100IDR)	0.740 ~ 0.896	0.763	0.777	0.766	0.764	0.768	0.751
韓国ウォン	(100KRW)	8.488 ~ 10.267	9.026	8.94	8.75	8.74	8.73	8.72
マレーシアリンギ	(MYR)	24.246 ~ 29.357	25.068	24.63	25.13	25.06	24.94	24.48
フィリピンペソ	(PHP)	2.127 ~ 2.570	2.163	2.15	2.11	2.10	2.12	2.12
シンガポールドル	(SGD)	72.61 ~ 85.54	74.68	74.26	72.06	72.93	72.73	71.43
台湾ドル	(TWD)	3.077 ~ 3.671	3.187	3.14	3.07	3.07	3.07	3.06
タイバーツ	(THB)	2.814 ~ 3.412	2.896	2.88	2.84	2.82	2.82	2.82
ベトナムドン	(100VND)	0.4475 ~ 0.5482	0.4488	0.45	0.44	0.44	0.43	0.43
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.359 ~ 1.718	1.571	1.60	1.63	1.54	1.52	1.58
南アフリカランド	(ZAR)	6.397 ~ 7.805	7.485	6.52	5.94	5.71	5.65	5.76
トルコリラ	(TRY)	32.990 ~ 41.265	34.162	32.58	29.70	28.53	27.43	27.14
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	27.727 ~ 32.973	30.891	30.61	28.82	28.03	27.27	26.69
メキシコペソ	(MXN)	5.197 ~ 7.018	5.503	5.32	5.24	5.30	5.42	5.49

(注)1. 実績の欄は7月29日まで。SPOTは8月19日の8時20分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。

(資料)みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。